

科目名	言語発達障害IV			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	前期	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
前期は言語発達障害に対する各種支援法を中心に行い、後期は演習を通じて学習する。								
〔授業全体の内容の概要〕								
言語発達をもたらず発達の要因について基礎的知識の理解を深め、各々言語発達障害の特性や検査、評価、指導・訓練のあり方、母親支援等の言語環境の整備について学ぶ。								
後半は講義中心の授業ではなく、実際に子どもや保護者の方に参加していただき、子どもとの接し方、言語治療の実際、臨床観察								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
言語発達障害児に対し、客観的な評価をした上で訓練計画を立案できる。								
後半は子どもとの接し方、言語治療の実際、臨床観察の仕方、評価、目標設定などについて学ぶ。								
回数	講義内容							
1	事例紹介①行動観察・面接・検査から得られた情報より評価							
2	〃 ②評価実施							
3	〃 ③評価完了							
4	I N R E A L ①概論							
5	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
6	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
7	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
8	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
9	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
10	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
11	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
12	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
13	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
14	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
15	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
16	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
17	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
18	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
19	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
20	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
21	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
22	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
23	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
24	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
25	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
26	臨床「ケースA」 ケーススタディ							
27	臨床「ケースB」 ケーススタディ							
28	臨床「ケースC」 ケーススタディ							
29	臨床演習 まとめ							
30	臨床演習 まとめ							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
なし・配布プリント								
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								